

年末年始を見据えた国民の皆様への呼びかけについて

12月23日、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部において、「新型コロナ・インフル同時流行対策タスクフォース」を開催し、直近の感染状況や医療提供体制の状況を確認しました（参考4参照）。

冬場は新型コロナ以外の疾患の患者が増える時期でもあり、救急医療も含め、例年医療提供体制に負荷がかかることに加えて、年末年始は医療機関の診療体制が通常とは異なります。

このため、従来の呼びかけの段階は維持しつつ、年末年始において、10月28日に取りまとめた周知用リーフレット（参考2, 3参照）を御確認頂き、次の点について会員企業の皆様に積極的に情報発信をお願いいたします。

- ・国民の皆様におかれては、年末年始に、同時流行や感染拡大が生じた場合、一時的に発熱外来にかかりにくい状況が生じることも懸念されます。
 - ・引き続き、ワクチン接種をお願いするとともに、国が承認した新型コロナ抗原定性検査キット、解熱鎮痛薬を早めに購入しておくこと、電話相談窓口などの連絡先の確認等の準備をお願いします。
 - ・重症化リスクの低い方については、既にご協力をいただいているところですが、重症化リスクの高い方や子どもを守るためにも、新型コロナ抗原定性検査キットによる自己検査や、地域の健康フォローアップセンターの活用を重ねてお願いします。
 - ・受診を迷った場合や、症状が重いなど受診を希望する場合には、地域の受診・相談センターにお電話いただき、かかりつけ医・発熱外来の受診や、電話診療・オンライン診療をご検討ください。
 - ・併せて、日ごろから体温や健康状態のセルフチェックをしていただくとともに、適切なマスクの着脱、手指消毒、換気などの基本的な感染対策の徹底をお願いします。
- また、全国の無料検査拠点での検査が拡充されます。帰省される際はぜひご活用下さい。

更に、年末年始に向け、別添の救急外来や救急車の利用に関するリーフレット（年末年始版）も作成しました。御団体におかれましては、十分御了知の上、会員企業への周知をお願いいたします。また、本リーフレットに掲載されている「救急車利用マニュアル」（参考5参照）は、急な体調不良やけがに備えてあらかじめ確認しておくことが有益であり、本リーフレットと一緒にマニュアルを周知することをご検討ください。

（参考1）新型コロナウイルス・季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応
（厚生労働省特設ウェブサイト）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku_00003.html

(参考2) 重症化リスクの高い方(高齢者・基礎疾患を有する方・妊婦)、小学生以下の子どもと保護者の方向けのリーフレット

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001006234.pdf>

(参考3) 重症化リスクの低い方向けのリーフレット

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001006235.pdf>

(参考4) 直近の感染状況及び医療提供体制の状況

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001029437.pdf>

(参考5) 救急車利用マニュアル(消防庁ウェブサイト)

<https://www.fdma.go.jp/publication/portal/post2.html>

添付資料

【別紙】救急外来や救急車の利用に関するリーフレット(年未年始版)

経済産業省 製造産業局

～年末年始に向けた皆さまへのお願い～ 冬場は救急医療も含め、医療体制に負荷がかかります。 特に年末年始は診療体制が通常とは異なります。

急な体調不良やけがに備えて **チェック!**

あらかじめ「救急車利用マニュアル」を確認しておきましょう。

救急車利用マニュアル



どのような場合に救急車を呼んだ方がよいか、詳しく記載されています。(「救急車利用マニュアル」総務省消防庁)

突然のこんな症状の時にはすぐ**119番!!**

顔



- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える

高齢者



頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立っていられない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

けいれん

- けいれんが止まらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせた

事故

- 交通事故や転落、転倒で強い衝撃を受けた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合◎
高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので注意しましょう。

迷ったら「かかりつけ医」に相談しましょう!

※発熱等の症状がある場合は、新型コロナウイルスに関する受診・相談センターに電話相談するか、速やかに発熱外来／かかりつけ医／地域外来・検査センターを受診しましょう。

※さらに、119番通報などの判断に迷った時は、お近くの救急相談窓口(＃7119等)にご相談下さい。

※救急車利用マニュアルには、高齢者のほか、おとな、子どもそれぞれの救急車を呼ぶべき症状や救急車の呼び方などが分かりやすく記載されています。

救急車の利用を迷ったら

かかりつけ医がいる場合
小学生以下のこどもの場合

かかりつけ医にご相談ください。

特に、こどもの場合は、症状は年齢などによって様々です。機嫌がよく、辛そうでなければ、慌てずの様子を見たり、かかりつけ医にご相談ください。

受診を迷った場合
夜間や休日の場合

電話相談窓口などをご利用ください。

受診・相談センターなどお住まいの地域の相談窓口、＃7119(救急電話相談)、＃8000(こども医療相談)や「こどもの救急」等関係Webサイトなど



(都道府県の電話相談窓口や「救急車利用マニュアル」など厚生労働省ポータルサイト)

必要なときは救急車を呼ぶことをためらわないでください。